

〔春日權現驗記三〕知足院殿○藤原忠實長者にておはしける時、永久二年十月のころ、常陸國司鹿島の宮を造營して、御社のありさまを記録して、國司かよひける殿中の女房のもとへつかはしたりければ、殿下御覽じて、御扇をかの女房に給はせけり。○中國司これをみて一首をそへて、鹿島の宮にたてまつりけり。

千とせまでかけてぞまもる氏人のかみべといます君のたまづさ

〔台記〕久壽二年九月廿八日壬申、一昨日、禪閣○藤原忠實召泰親、占内覽遅々事、占申曰、依神事違例、氏神成崇、○中略乃今旦奉白妙幣及馬一匹於春日、用吉服、使憲忠、有告文、

維久壽二年歲次乙亥九月乙巳朔廿八日壬申、吉日良辰、仁、掛毛、恐幾春日大明神乃瑞乃廣前爾、從一位藤原朝臣賴長、恐美、恐美、申給止、波久、申久、謬以庸昧之陋質、天、苟爲氏族之長者、利、登台階、天、年久具執政柄、天、日積禮、是則宗社、乃靈醜、累祖、乃除慶、能延、天、所及、利、奈、

〔台記〕久壽二年十二月十一日甲申、子刻衣冠、服、吉、詣北野奉白妙幣、一、權寺主相圓申祝、次菅登宣、讀祭文了、押御殿隔子内、余通夜寶前讀心經、藤氏長者、不具御前舞人等、密々、○此間恐有脫字神社未聞先例、而依恐誣告、不知例有無、不問日吉凶所參也、

〔吾妻鏡一〕攝政内大臣基通

治承三年十一月十六日、任内大臣、元二位、中將爲關白氏長者、

攝政内大臣師家

壽永二年十一月廿一日、任内大臣、元大納言爲攝政并氏長者、

〔玉海〕壽永三年三月廿三日壬子、光長參送云、廣季只今入來云、賴朝奏條々事於院、○後白河其中下官、藤原兼實可爲攝政氏長者之由、令申了之由、自廣元之許、廣季子所示送也云々、即其正文可經御覽之由、

廣季令申云々、